

会報

〔会長就任の御挨拶〕

小川英次

このたびはからずも会長に指名されましたことを光栄に存じます。日本中小企業学会のこれまでの成果を思い、また未来を展望いたしますとき、会長職の重要性を感じずにはおられません。初代会長であられた山中篤太郎先生、2代会長の伊東岱吉先生は、就任御挨拶のなかで「中小企業研究の学際化」と「事実検証に基づく理論化」を強調されました。また3代会長小林靖雄先生と前会長瀧澤菊太郎先生は、学会の基本精神を堅持し、「世界的視野に立ち、多様な視点から自由に論じ合える場としての学会」であることを強調されました。

学会の会員一人一人の御尽力と役員の方々の御指導により今日に至りました日本中小企業学会におきまして、事務局幹事の皆さんの協力を得てこれから3年間会長として努力させていただきたいと思っております。そのためまずは会員、部会の意見を聞くことに努め、役員の方々の御支援を得て、学会の着実な発展にいささかでも貢献できれば誠に幸いと存じます。

今日日本中小企業学会は、会員数419名を数えるところとなりました。振り返ってみますと、学会発足時発起人数は144名でありました。前会長瀧澤先生の会長御就任の時点では393名を記録し、419名の現段階を迎えたわけであります。今後は着実に会員数増加をはかるとともに、学会の質的向上にも十分配慮させていただきたいと思っております。

さらに今日までの統一論題を論集タイトルで振り返ってみますと、本学会の関心が多岐にわたり、中小企業研究において私達の辿ってまいりました軌跡が明らかとなります。ここにお示ししてみますと、「国際化と地域中

小企業」、「技術と中小企業」、「中小企業問題」、「下請・流通系列化と中小企業」、「先進国の中小企業」、「高度情報化と中小企業」、「産業構造調整と中小企業」、「中小企業の経営戦略」、「世界の日本の中小企業」、「地域経済と中小企業」、「企業間関係と中小企業」であり、本年の統一論題は、「21世紀に向けての中小企業政策の展望と課題」となっております。これをみますとき新たな方向も示唆されているように思われます。

いまや中小企業は、わが国を含む先進国の問題であるばかりでなく、NIEsさらには発展途上国の大きな問題としてますます重要性を増しつつあります。そのうえ地域中小企業の国境を越えた国際リネージュにも注意が払われつつあります。中小企業の発展の基盤強化が一国経済の発展につながることは次第に世界の共通認識となりつつあります。このような状況はわが学会における研究の役割を一層重要なものとしていると確信いたします。

最後になりましたが、今回会長をお引受けするに当たり、学会の先輩、同僚の諸先生から長きにわたっていただきました御指導につき心から感謝申し上げます。

会長と致しまして、本学会が変わらず風通しのよい、活力ある学会であり続けますよう全力投球させていただきたいと存じております。どうか皆様からの御指導、御支援をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

